

聖書：マタイ 16：13～19

説教題：この岩の上に

日時：2019年10月6日（朝拝）

今日の箇所にはピリポ・カイサリアにおけるペテロの有名な信仰告白が記されています。イエス様はこれを聞いて喜ばれ、「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです」と言われます。この「幸いです」という言葉は、山上の説教冒頭の「幸いなるかな、心の貧しい人たち」と始まって8回繰り返されるあの祝福を宣言する言葉と同じです。そしてイエス様はここで初めて「教会」について語られます。ちなみに福音書の中に「教会」という言葉は何カ所に出て来るかご存知でしょうか。答えは2カ所です。ここともう少し後の18章だけです。思ったより少ないと感じる方が多いのではないのでしょうか。しかしそれはそれだけ、ここはイエス様が教会について言及された重要な箇所ということになります。以下、3つのポイントで見て行きたいと思います。

一つ目はペテロの信仰告白についてです。異邦人の地、ピリポ・カイサリアでイエス様は弟子たちにまず「人々は人の子をだれだと言っていますか」と尋ねます。これは次の問いのための準備です。弟子たちは、人々はバプテスマのヨハネだとか、エリヤだとか、エレミヤだとか、預言者の一人だと言っていますと答えます。そしてイエス様は大事な問いを發します。「あなたがたはわたしをだれだと言いますか。」これに対してペテロが使徒たちを代表して答えます。「あなたは生ける神の子キリストです。」

これはイエス様がこの後、喜んで受け入れておられるように良い答えです。確かに次回の箇所で明らかになるように完全ではありません。弟子たちには理解の足りないところがまだまだあることが、この後を読んで行くと分かります。しかしこの段階としてはこの答えでOK。十分に立派な告白でした。ペテロはまず「あなたはキリストです」と答えました。「キリスト」はヘブル語の「メシア」に相当し、「油注がれた者」という意味です。旧約以来、神が約束して来られた救い主を指す称号です。ペテロはこの時初めてそう思ったわけではありません。ヨハネの福音書1章を見ると、ペテロは兄弟アンデレに連れられてイエス様のもとに来ましたが、その時アンデレはペテロに「私たちはメシア（訳すと、キリスト）に会った」と告げました。つまりペテロは最初からイエス様をメシヤだととらえ、そのように信じてついて来たのです。そしてイエス様の人格に触れ、その教えと働きに接する内に確信をもってこう告白できるように導かれたということ

でしょう。考えに入れて良いと思われることは、この時は多くの人々がイエス様から離れ去って行く状況があったことです。少し前に見た 5000 人の給食は、この世的に見ればイエス様の人気が最高潮の時でしたが、それ以後、自分たちの思う通りではないイエス様を見て人々がどんどん離れ去って行く状況がありました。またパリサイ人らの敵対的行動も顕になって来ました。そんな中、イエス様が弟子たちに「あなたがたも離れて行きたいのですか」と問われたことがヨハネの福音書 6 章に記されています。このような状況の中で、ペテロは律法学者やパリサイ人、また多くの民衆の意見に逆らって「あなたはメシアです、キリストです」と告白したのです。さらに彼は「生ける神の子」とも付け加えています。「神の子」という言葉はすでに 14 章 33 節で弟子たちの口から発されていました。それは湖の上を歩かれるイエス様を見て驚き、急いで発した言葉でした。しかしここではよく熟考した上での言葉です。目の前におられるお方は見た目には何の輝きもなく、富もなく、人々から退けられ、しもべの姿でしかない方。その方を見つめてペテロは、あなたは生ける神と特別な関係にある神の子ですと述べたのです。

これを聞いてイエス様は言われました。17 節：「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です。」 イエス様はここでペテロがこのように答えたことを父なる神の恵みに帰しています。これは人間が自分の知恵や洞察力によって得たものではないということです。11 章 25 節：「天地の主であられる父よ、あなたをほめたたえます。あなたはこれらのことを、知恵ある者や賢い者には隠して、幼子たちに現してくださいました。」 ですから私たちが神について、キリストについて、聖書について、何かを知り、理解できたなら、それはただ神のおかげであると知って神に感謝しなければなりません。そしてさらに神と神の真理について知りたいと願うなら、この神により頼まなければならないということになります。

2 つ目に見るのは 18 節のイエス様の言葉です。先に触れたように、イエス様はここで初めて「教会」という言葉を使っています。これはギリシャ語のエクレシアという言葉で、「召し集められた者たち」とか「呼び集められた者たち」という意味です。イエス様はその「わたしの教会」をこの岩の上に立てると言われました。果たしてこの「岩」とは何でしょうか。ご存知の通り、ローマ・カトリック教会はこの岩はペテロのことであり、ローマ教皇性の根拠にしています。18 節には印が二つ付いていて欄外を見ると、一つ目のペテロはギリシャ語で「ペトロス」、二つ目の岩はギリシャ語で「ペトラ」

とあります。イエス様はこうして教会の全権をペテロー人に委ねたとするわけです。そしてその後継者であるローマ教皇（法王）に今日もキリストは教会の全権を委ねていると。これに対してプロテスタントは反対します。ある人たちはこの岩はペテロのことではあり得ないと言います。彼はこの直後も御心にかなわない発言をしますし、後にはイエス様を3回知らないと言います。その後でも失敗します。そんな彼一人に全権が委ねられたら大変なことになる。むしろここではペテロの信仰告白を受けてイエス様が語られたのだから、この「岩」は「イエスはキリストである」との信仰告白を指すと言います。しかし一般的にはこの解釈はローマ・カトリック教会への反動のあまり行き過ぎた解釈であると言われます。文脈を良く見れば、ペテロがイエス様を告白したことに続いて今度はイエス様がペテロに「わたしも言います。あなたはペテロです。」と言っています。そう述べた上で「この岩の上に、云々」と語っているわけですから、明らかに「ペテロ」の名前と「岩」との間には関連があります。ではどういうことになるのでしょうか。イエス様はペテロの信仰告白を受けて、これを語られたわけですから、もちろん信仰が重要であるのは間違いありません。しかしイエス様はただ信仰の上に教会を建てると言ったのではなく、信仰告白をしたペテロの上に教会を建てると言われたのです。ですからこの岩とはやはりペテロを指しています。そしてさらにその意味を探る際、考慮すべきは、ペテロは12使徒の代表としてこの告白をしたということです。イエス様は15節でペテロー人に聞いたのではなく、「あなたがたはわたしをだれだと言いますか」と問われました。ペテロはそれに対して12使徒の代表としてこの告白をしたのです。このことはこの後の19節を考えることによっても分かります。そこでイエス様はペテロに「わたしはあなたに天の御国の鍵をあげます」と言っていますが、もう一度「教会」という言葉が出て来る18章17～18節をみると、このいわゆる「鍵の権能」を持つ人たちが「あなたがた」と複数形で語られています。ですから鍵の権能はペテロー人にではなくて実際には使徒たちに与えられたものであることが分かります。それと同じようにイエス様は今日の箇所でもただペテロー人の上にわたしの教会を建てると言われたのではなく、イエスをキリストと告白する使徒たちの上にわたしの教会を建てると言われたのです。

これがイエス様のご自身の教会を建てる方法でした。「使徒たちの上に」です。ですからイエス様は使徒たちを選び、彼らとともに生活して来られました。イエス様は地上の生涯において人々に広く福音を語ったのではなく、使徒たちの教育に集中されました。彼らはイエス様のそばで生活し、その姿を直接見、その言葉を直接聞き、この方にさわ

り、この方を味わうかのようにして共に過ごして来ました。そしてついにその彼らから正しい信仰告白が出て来たのです。これはこれまでイエス様が彼らと一緒に過ごされたことの実です。そしてこれからもイエス様は彼らを導かれます。その彼らの上にご自身の教会を建てると言われたのです。実際、イエス様はまもなく十字架にかかり、復活し、天に昇って行かれます。そうしたらどうやってキリストの教会は建てられて行くのでしょうか。それは「使徒たちを通して」ということです。使徒の働きを読むなら、確かにこの使徒たちを通してキリスト教会が発展して行ったことが分かります。

では今日はどうでしょうか。今日、使徒はいません。時々自分は使徒だ！と自称する人が現れたりしますが、使徒とはイエス様をその目で見た目撃証人であり、かつイエス様から直々にこの働きに任命された人であると聖書に定義されていますから、イエス様が地上におられた後の世代にはもう存在しません。ではどうやって教会は使徒たちの上に建てられると言えるのでしょうか。答えは使徒たちは今日も証言しているということです。新約聖書の諸文書においてです。エペソ人への手紙 2 章 20 節に教会を指してこう言われています。「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。」ですから私たちはキリストを知り、キリストの教会の一部にされようとするなら、この新約聖書の使徒たちの教えによく聞かなければなりません。ヨハネの手紙第一 1 章 3 節にも使徒ヨハネの言葉としてこうあります。「私たちが見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えます。あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父また御子イエス・キリストとの交わりです。」ここで言う「私たち」とは使徒たちのことです。この使徒たちの言葉に聞いてこそ私たちはキリストおよび神との交わりの中を歩めるのです。

その教会の祝福が 18 節後半にこう言われています。「よみの門もそれに打ち勝つことはできません。」よみとは死者の世界のことです。その門は死者をその中に閉じ込め、支配する力の象徴です。従ってこれは死の力、暗闇の力、さらにはサタンを象徴します。今日もこの暗闇の力は多くの人々を覆っている力です。しかし使徒たちの証言に聞いてイエス様にしっかり結ばれるなら、この暗闇の力は恐れるに足りないと言われていきます。なぜならイエス様は十字架と復活を通してサタンの力を滅ぼしてくださるからです。その尊い命を投げ出して、私たちが払うべき罪の代価を代わりに払い切り、あらゆるさばきと呪いから私たちを解放してくださるからです。これは何という慰めまた励ましでしょうか。私たちは日々多くの悩み、戦い、困難の中にありますが、使徒たちを

通してイエス様につながるならよみの門さえ打ち勝つことはできないのです。むしろキリストにある圧倒的な勝利の祝福の内に歩ませていただくことができるのです。

最後 3 つ目に短く 19 節の「天の御国の鍵」について見たいと思います。これは簡単に言えば天国を開け閉めする鍵のことです。「つなぐ」という言葉と「解く」という言葉には印がついていて、欄外の 19 を見ると、それぞれ「禁じる」「許す」と訳せることが記されてあります。つまり使徒たちはある人たちが天の御国に入ることを禁じることもできるし、逆に許可することもできる。これはどういうことでしょうか。これと同じことを言っているのがヨハネの福音書 20 章 23 節です。復活後のイエス様が使徒たちを宣教に遣わす際、こう言われました。「あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」 これらの聖句で考えられていることは福音宣教における鍵の権能です。使徒たちはキリストについて証言し、福音を伝えます。その時、ある人は信じ、ある人は信じないということが起こります。その信じた人に対して、使徒たちは天の御国の鍵を実際に開ける役割を果たします。一方、信じない人には天の御国の鍵を閉める働きをしたこととなります。ペテロたちが実際にそのような働きをしたことは使徒の働きにいくつか具体的に記されています。ペンテコステの日のペテロの説教で人々は 3000 人回心しました。これはペテロが彼らに御国の鍵を開けて、そこに入るように導いたということです。また使徒の働き 10 章でコルネリウスとの出会いを通して異邦人宣教への道が開かれます。これもペテロが鍵を開ける働きをしたということです。一方、使徒の働き 8 章では、お金で神の国の権威を買おうとした魔術師シモンの願いを退けます。そのような仕方でも神の国に参加しようとした彼にペテロは鍵を閉める働きをしたのです。これは御言葉を忠実に伝えることによって使徒たちが果たす役割です。そして今日、私たちもこの使徒たちの言葉に忠実に福音を伝えて行く限りにおいて、その行く先々で天の御国の鍵を開き、また閉めるという役割を担う者とされるのです。

以上、弟子たちはついにイエス様の導きを経て「あなたこそ生ける神の子キリストです」と告白しました。彼らの告白は実を結び始めたばかりで、まだまだ不完全ですが、イエス様はこのキリスト告白をしたペテロの上に、使徒たちの上にわたしの教会を建てるとされた方法を投げ捨てられません。そのためにこの後も彼ら使徒たちを教え導き、用いて行かれます。このイエス様の方法を受け止め、私たちもこのイエス様の方法に従いたいと思います。イエス様は十字架前夜、ヨハネの福音書 17 章 20 節で、特に使徒た

ちのことを念頭に置いてこう祈られました。「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。」 私たちは使徒たちに聞き、イエス様のみからなる教会の一部とされて、あらゆる悪から守られ、主が導いてくださる天の御国の祝福に豊かに生かされる者とされたいと思います。そしてこの使徒の教えを忠実に宣べ伝えて、天の御国を開け閉めする働きを担わせていただき、願わくは多くの人々をこの祝福に招き入れ、御国が完成することのために仕える者とさせていただきたいと思います。